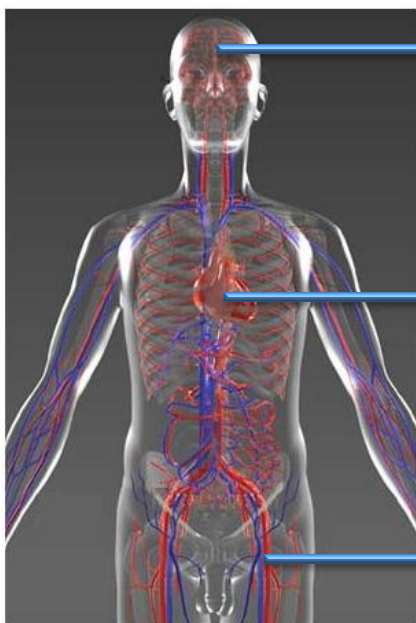


血管事故



脳卒中

狭心症
心筋梗塞

下肢閉塞性
動脈硬化症

「血管の老化」とは、血管が厚く、硬く、狭くなることです。それに伴って血液の流れが悪くなり、血管が詰まることで「血管事故」が起こります。血管の老化は年齢とともに進行するだけでなく、肥満や高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病を合併することでさらに加速していきます。このような背景には、欧米型の偏った食生活や運動不足、喫煙などの生活習慣の変化があると言われています。「血管事故」が起こる前に「自分の血管の老化の程度」を把握し、生活習慣の見直し、生活習慣病の治療を行うことが大切です。

Q&A

Q. どんな人が受けると良いの？

A. 40歳以上で、高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満、喫煙歴のどれかをお持ちの方。

Q. もし、病気が見つかったら？

B. 治療が必要な病気が見つかった場合は、疾患ごとに専門科（循環器内科、脳神経内科、脳神経外科）にご紹介します。生活習慣病の治療が必要な場合は、栄養療法や運動療法の指導を受けていただき、必要に応じて薬での治療を行います。

Q. ずっと通わないといけないの？

C. 脈管外来での検査結果は、かかりつけ医にご報告しますので、専門科での治療が必要な方以外は、かかりつけ医での治療を続けて下さい。

脈管外来

日本人の死因の約1/3を占める
「心疾患」、「脳血管障害」。

下肢の血流不全により歩けなくなる
「下肢閉塞性動脈硬化症」。

これらの疾患は心臓や脳、下肢そのものの病気ではなく、血管の病気です。

このような血管による病気、すなわち
「血管事故」

を予防するための外来、

それが「脈管外来」です。



〒625-8502

京都府舞鶴市宇行永 2410 番地

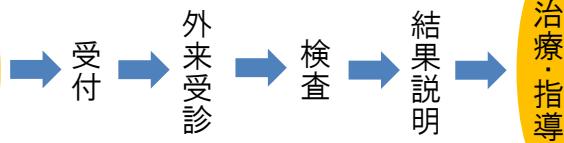
独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター

TEL 0773-62-2680

FAX 0773-63-5332

脈管外来の流れ

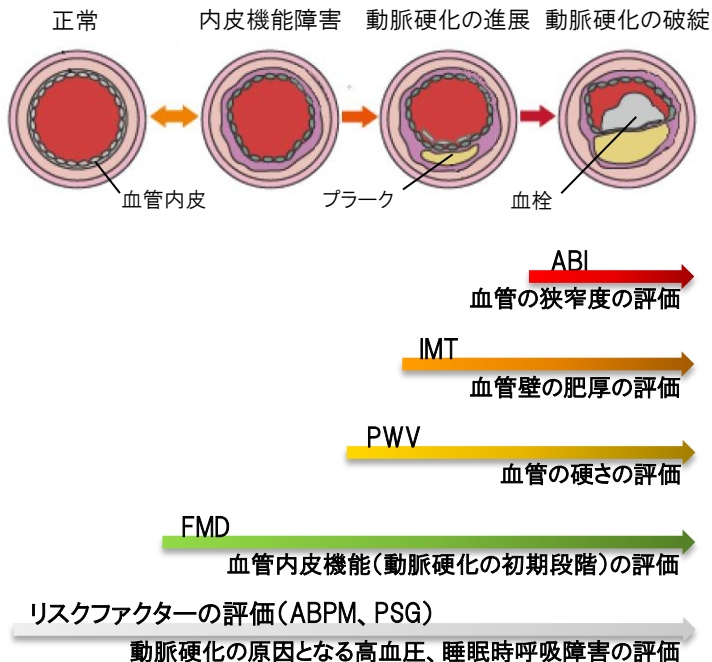
完全予約制



治療・指導

- ・紹介制、完全予約制です
- ・受診希望の方は、かかりつけ医に相談して下さい
- ・原則、外来で検査を行います。入院をご希望の場合は、外来受診時に相談してください

血管病変と検査項目

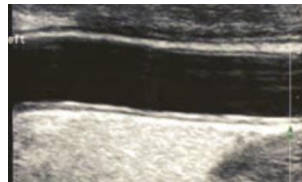


ABI・PWV

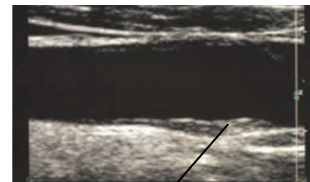
- ・ABI(足関節上腕血圧比)
 - ・足首と上腕の血圧を測定し、その比率を計算したもの
 - ・血管の狭窄や閉塞を評価します
- ・PWV(脈波伝播速度)
 - ・心臓の拍動が手足に届く速度を検査したもの
 - ・動脈壁の弾力性を評価します
- ・ABIとPWVは同時に測定します
- ・ベッドで仰向けになり、両腕と足首に血圧計、心電図の電極、心音マイクを装着します
- ・所要時間は5分程度です

IMT

- ・IMT(内膜中膜複合体厚)
 - ・頸動脈エコーで、頸動脈の壁肥厚、狭窄を評価します



正常



壁肥厚

FMD



- ・FMD(血流依存性血管拡張反応)
 - ・カフで腕を締め、その後、カフを緩めた際の血管拡張を超音波で計測します
 - ・血管内皮機能が衰えると、血管が拡張しなくなります

ABPM

- ・ABPM(24時間自由行動下血圧測定)
 - ・片腕に血圧を測定するために帯を巻き、血圧計本体を腹部に固定して、自由に行動している中での血圧の変動を測定します
 - ・昼間は30分間隔、夜間は1時間間隔で機械が自動的に血圧を測定してくれます

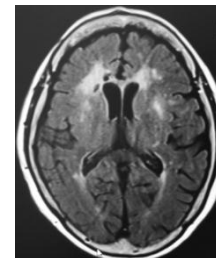
PSG

- ・PSG(終夜睡眠無呼吸検査)
 - ・夜間睡眠中の呼吸状態、睡眠状態を調べる検査
 - ・簡易型検査を行います
 - ・検査技師から装着方法などの説明を受けた後、機械を自宅に持ち帰って、ご自身で装着していただきます

MRI・MRA

- ・MRI(磁気共鳴画像診断)
 - ・脳の断層像を撮像します
 - ・脳梗塞や脳出血を発見できます
- ・MRA(磁気共鳴血管造影)
 - ・頭頸部の血管を立体画像化します
 - ・血管の閉塞や狭窄、動脈瘤を発見します

MRI



MRA

